

環境とともに

<経営目的>

限りある資源を有効利用し、持続可能な循環型社会づくりに貢献すること

ワタミグループは、「ワタミ環境宣言」を実現するため、環境（エコロジー）と経済（エコノミー）の両立（W-ECO）を目指し、ワタミファーム&エナジー(株)を中心として、環境活動を実施しています。

■「ワタミ環境宣言」と「W-ECOビジョン2020」の策定

ワタミグループは、1999年に、外食産業で初めてISO14001を本社とグループ外食店舗全店で取得するとともに、「ワタミ環境宣言」を策定し、その実現を目指して環境活動に取り組んでいます。

また、2009年には、「ワタミ環境宣言」を実現させるための長期的な目標として、「W-ECOビジョン2020」を策定し、「2020年までにグループ全体の環境負荷（CO₂）を50%削減（2008年度比、売上高当り）」するという方針を掲げました。

ワタミ環境宣言

美しい地球を美しいままに、
子どもたちに残していく。

- 地球で事業活動を営む企業の責任として、その存在ゆえに生じる環境負荷を少しでも小さくする。
～地球の邪魔をしない存在となる～
- 環境活動が経済活動であることを証明して、他の企業を啓発する。
- グループの成長に伴い増え続ける国内外の従業員を介して「環境」に働きかける。その一人ひとりが生活の中で、常に「環境」を意識し、実質的に明日の地球の現実を変えていくための行動をとる。

ワタミグループ環境方針（W-ECOビジョン2020）

グループCO₂排出量を2020年までに50%削減
(2008年度比、売上高当り)

ワタミグループは、ワタミ環境宣言2008の考え方に基づき、W-ECOビジョン2020を環境方針として掲げます。このW-ECOビジョン2020達成のため、下記のとおり、3つのテーマに分けて環境活動を実施します。

1. 事業活動における環境負荷（CO₂）を低減します。
 - 外食事業、介護事業、高齢者向け宅配事業（※）で排出するCO₂を2020年度までに50%削減します。（※）現在は「宅食事業」に事業名が変更されています。
2. 循環型社会構築のため、環境改善事業を強化します。
 - 安全・安心な循環型社会構築のため、有機野菜の生産量拡大を目指します。
 - 外食事業・食品製造事業による食品廃棄物（生ゴミ）のリサイクルに努めます。
 - 環境教育や森林保全に取り組む「ワタミの森」の活動を促進します。
3. グループ社員一人ひとりの環境意識を向上させ、日々の環境改善を推進します。
 - 社員・パート・アルバイトが生活で排出するCO₂を2020年度までに30%削減します。

【ワタミファーム&エナジーの事業活動】

2015年1月より、ワタミエコロジー(株)は、ワタミファーム&エナジー(株)へと社名を変更しました。その事業構成を「エナジー事業」と「アグリ事業」に分け、農畜産物の集荷及び配送に関する事業なども担うことにより、地域の皆様とともに持続可能な循環型社会をつくるべく活動しています。

<持続可能な循環型社会づくり>

ワタミグループは、風力や太陽光といった再生可能エネルギーによる発電を行い、さらに森林再生事業や農場・土づくりといった活動と組み合わせ、それぞれの地域において資源やエネルギーが経済的に循環する「持続可能な循環型社会づくり」を地元の皆様とともに目指します。

■風力発電の取り組み

ワタミグループは、秋田県にかほ市の市民風力発電プロジェクトに参画し、1号機となるワタミ夢風車「風民（ふーみん）」を、2012年3月より稼働しました。2013年度には、新たに2基の風車プロジェクトへの参画を決定し、5月には秋田県秋田市にて2号機を、6月には秋田県由利本荘市にて3号機を稼働しました。3基合わせ、出力は6,000kWhです。

発電された電力は、再生可能エネルギー全量固定価格買取制度を活用し、全量、東北電力に売電しています。



ワタミ夢風車「風民（ふーみん）」

■太陽光発電の取り組み

ルーフソーラーの設置

ワタミグループは、2013年度、ワタミ手づくり厨房（以下、センター）の屋根にルーフソーラーを設置し、太陽光発電を開始しました。2014年度末現在、2カ所のセンターに設置しており、発電した電力は、全量、電力会社に売電しています。2015年度中には、さらに4カ所のセンターにもルーフソーラーを設置予定です。



東松山センタールーフソーラー

メガソーラーの取り組み

2013年度は、株式会社CSS様と連携して、北海道勇払郡厚真町で、メガソーラー（大規模太陽光発電）を着工し、（発電容量15MW、年間発電量16,000千kWh）2015年4月より本格稼働しています。また、勇払郡むかわ町においても第2基目となるメガソーラー（発電容量19MW、年間発電量20,000千kWh）の建設が始まり2016年2月完成予定です。



厚真町メガソーラー

■森林再生事業への参画

ワタミグループは、2014年度より、大分県臼杵市との間で「水源涵養（※1）の森林づくり」の協力に関する協同宣言を調印しました。2015年からは森林組合と臼杵市役所の協力の下、森林事業を開始しました。森林所有者（市民）と行政（臼杵市）とワタミグループが連携して、森林づくりを行っていきます。森林づくりの過程で発生した間伐材は、カスケードセンター（※2）を経由して、建築材、エネルギー利用のためのチップ、堆肥原料として、無駄なく活用する予定です。また、将来的には、ワタミグループの外食店舗や介護施設の内装などに使用予定です。持続可能な森林資源の活用を模索し、森林所有者や地域社会への還元を目指します。

※1 水源涵養とは：降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流用を安定させる、森林の土壌の機能。また、雨水が森林土壌を通過することにより、水質が浄化される。

※2 カスケードセンターとは：資源やエネルギーを1回だけの使い切りにするのではなく、利用したことで性質が変わった資源などを、その後もさらに別の用途に活かすための取り組みを行うセンター



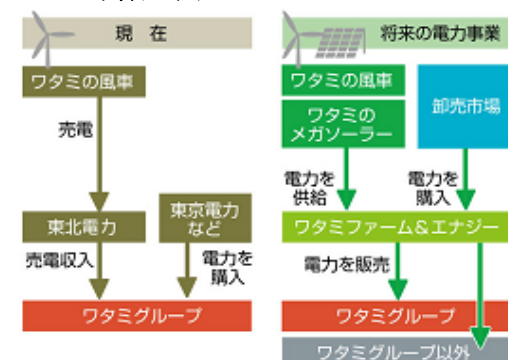
■PPS事業への参入

環境事業では、2014年5月、PPS（※）事業に参入しました。現在、取り組んでいる風車やメガソーラーから発電される再生可能エネルギーを、2018年以降に計画されている発送電の分離が実現された段階で、ワタミグループの事業施設に供給できる仕組みを構築することで、再生可能エネルギーを日本に普及させていくことができると考えています。

2014年度末現在は、民間発電卸売市場（一般社団法人 日本卸電力取引所様）から電力を調達し、ワタミグループの本社ビル、外食店舗18店舗、介護施設57棟、センター10カ所に供給しています。2014年度末からは、外部顧客に向けた供給も開始し、今後も供給施設数を拡大していけるよう取り組んでいきます。

※PPS(Power Producer and Supplier、特定規模電気事業者)とは：地域の電力会社（一般電気事業者）以外に、大量の電力を消費する企業や工場など（特定規模需要家）に電力を供給する事業者。

PPS事業の図



■廃棄物の適正管理

環境事業では、法律を順守した廃棄物処理が行われているかを厳重にチェックし、適正価格かつ安全で安心なスキームが維持管理されるよう、お取引業者様と強固な関係を構築し、「廃棄物処理管理」というサービスを確立しています。

2014年度末現在、ワタミグループ関連会社だけではなく、外部企業52社からも業務を請け負っています。

また、ワタミファーム&エナジー(株)は、ワタミグループのすべての外食店舗、介護施設における産業廃棄物の収集において、「電子マニフェスト(※)」を導入しており、確実なマニフェスト管理を行っています。

※電子マニフェストとは：産業廃棄物の処理を委託する際に必要となる、産業廃棄物の名称、運搬業者名、処分業者名、取り扱い上の注意事項などを記載したマニフェスト(産業廃棄物管理票)の情報を電子化して、排出事業者、収集運搬業者、処分業者の3者が情報処理センターを介したネットワークで、正確な情報や、処理が適正にされているかを把握する仕組み。

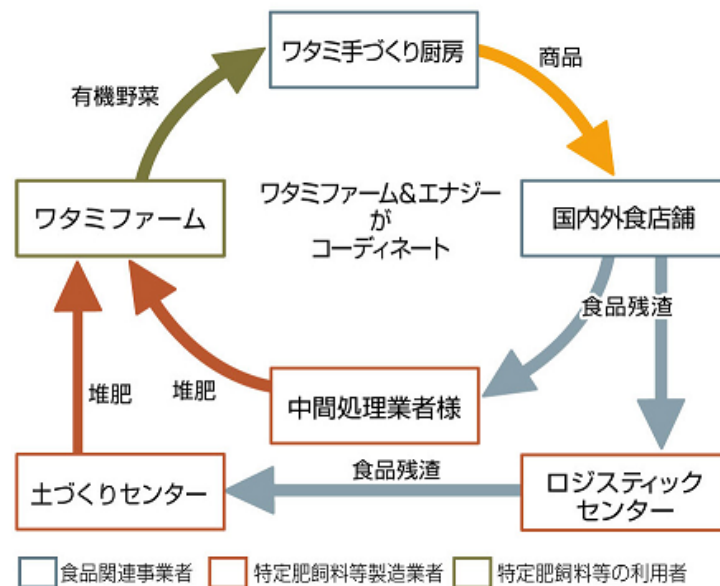
■食品リサイクルの推進

外食業界では、食品リサイクル法に基づき、企業ごとにリサイクル率の向上に取り組んでいます。ワタミファーム&エナジー(株)は推進役として、ワタミグループのみならず、業界のリサイクル率を向上させるため、企業連携を含めた食品リサイクル・ループ(※)の構築に取り組んでいます。2010年5月には、国内大手居酒屋チェーンとして初めて、環境省・農林水産省から食品リサイクル・ループの認証を取得しました。

2014年度末現在、139店舗のワタミグループ外食店舗と、12カ所すべてのワタミ手づくり厨房(以下、センター)の生ゴミをリサイクルしており、ワタミグループのリサイクル率は約49.8%(外食店舗：45.8%、センター：78.1%)です。

※食品リサイクル・ループ(再生利用事業計画認定制度)とは：農畜水産物等の利用までを含めた計画的な食品循環資源の再生利用の取り組みを主務大臣が認定することにより、再生利用の促進に関わる関係者の連携を推進するとともに、認定事業者による的確な再生利用の実施、廃棄物処理法の許可手続きなどの簡素化による効率的な再生利用の実施を確保する制度。制度上、食品関連事業者、特定肥飼料等製造業者、特定肥飼料等の利用者の三者申請することとなっている。

ワタミグループの食品リサイクル



■リサイクルロジスティックセンターの開設

環境事業では、2014年度、東京都足立区に「リサイクルロジスティックセンター」を開設しました。リサイクルロジスティックセンターには2014年度末現在、関東圏の108店舗のワタミグループ外食店舗から排出された食品残渣や資源ゴミなど全ての廃棄物を集約しており、資源ごみは100%再利用するとともに、食品残渣は異物や水分を除去した上で、「土づくりセンター」へ搬入することで、良質な堆肥の製造を目指しています。



■空ビンのリユース・雑ビンのリサイクル

ワタミグループ外食店舗では、ワタミファーム&エナジー㈱を推進役として、ビン廃棄量を抑制するため、オリジナル日本酒の空ビンのリユースに取り組んでいます。2014 年度末現在、351 店舗でリユースを実施しています。また、全種類の雑ビンの回収、および全量リサイクルにも取り組んでいます。2014 年度末現在、関東地方の 252 店舗と関西地方の 70 店舗で雑ビン回収・リサイクルを実施しており、約 500t/年の廃棄物を削減し、資源の有効活用に貢献する事が出来ました。



<環境マネジメント>

■ISO14001 の管理・推進

ワタミグループは、事業毎に環境管理責任者を置き、独自の目標を立て、環境活動に取り組んでいます。ワタミファーム&エナジー㈱は、ISO14001 の事務局として、各事業において ISO14001 に基づいた環境マネジメントサイクルが適正に稼働されているかを確認し、環境目標が達成できるようサポートしています。

2014 年度も、前年度に引き続き、グループ全社で ISO14001 の認証を更新することができました。

■「エコ夢サイト」の運営・管理

ワタミグループは、2010 年度、環境家計簿「エコ夢サイト (WEB サイト)」を開設しました。エコ夢サイトには、CO₂削減につながる具体的な行動が紹介されている他、社員の日々の生活での電気・ガス・ガソリンの使用量を入力する個人ページが設けられています。自動的に CO₂排出量が換算される仕組みになっており、それぞれの使用量を入力することにより、自らの CO₂排出量を把握し、その削減のために取り組むことを目指しています。

2014 年度は、一人ひとりの取り組みにより、社員の生活における CO₂排出量を 19%削減 (2011 年度比) することができました。

■エネルギーの見える化の取り組み

ワタミグループ外食店舗では、2004 年度より、「電力の見える化システム」を導入しており、いつ、どこで、どのくらい電気が使用されたのかを計測し、営業時間外・営業時間中のムダ電気の削減に取り組んできました。

2012 年度からは、その内容を刷新した「エネルギー (電力) 管理システム」をワタミグループの外食店舗と介護施設に導入を進めています。このシステムは、電気使用量をリアルタイムで把握することができるので、各事業施設での節電による効果をより実感できるようになりました。また、電力の供給逼迫の際には、各事業施設の節電分を電力会社に売電するネガワット取引 (※) が可能です。

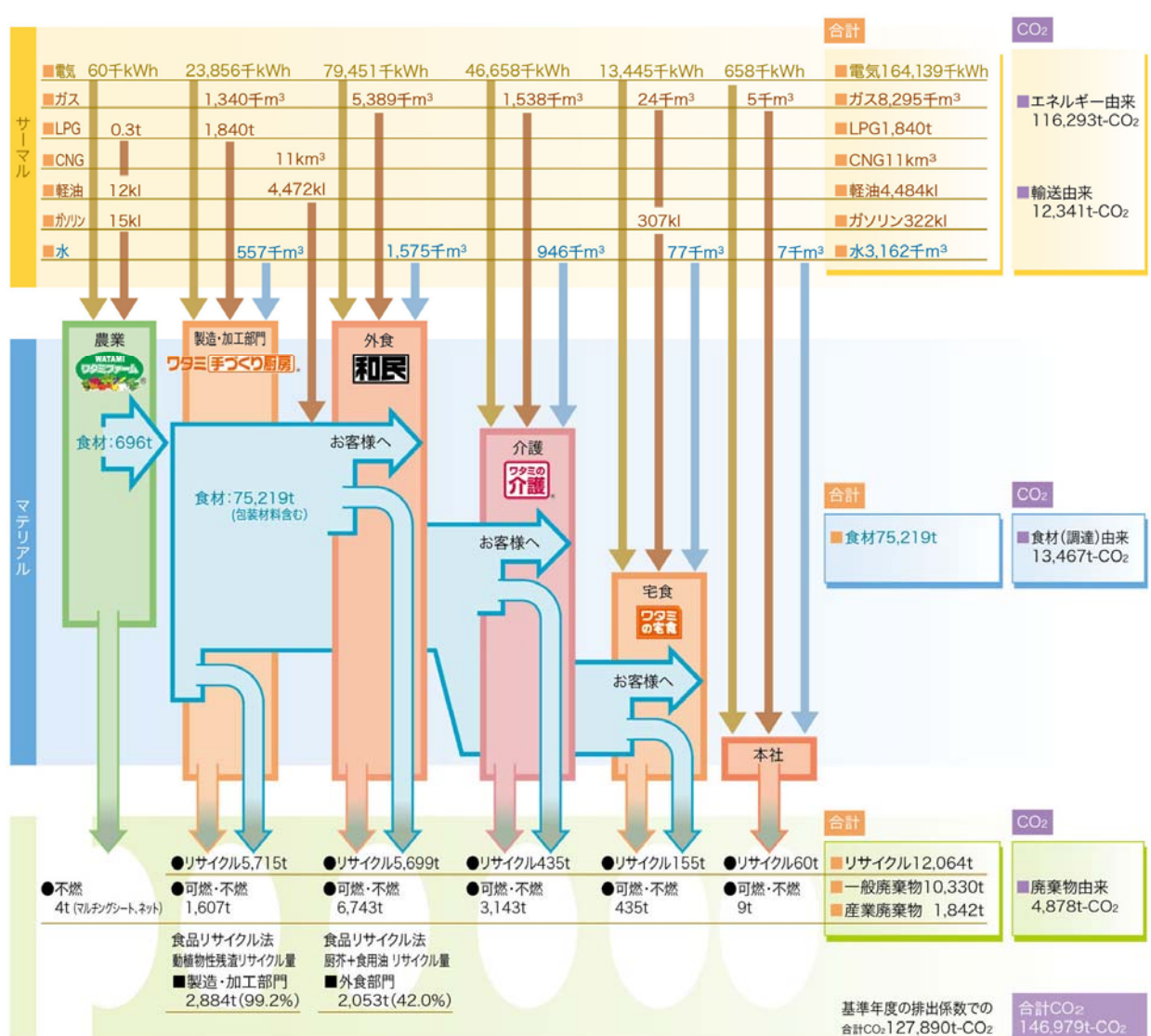
2014 年度末現在、外食店舗 510 店舗、介護施設 97 棟への導入を完了しており、これらの取り組みにより、2014 年度は、電気使用量を 7.8%削減 (2013 年度比) することができました。

※ネガワット取引とは：企業や過程が節電した電力について、同量を発電したとみなし、電力会社が買い取る制度。

■ワタミグループの 2014 年度の環境負荷

ワタミファーム& エナジーは、「W-ECO ビジョン 2020」に掲げている「2020年までにCO₂排出量を50%削減（2008年度比、売上高当り）」を達成できるよう、ワタミグループ全事業活動における環境負荷を把握し、次年度の活動に活かしています。

■ワタミグループ マテリアル&サーマル・フロー



【図の見方】

- CO₂の排出係数は次の通り設定しています。（毎年度変更となる数値です。努力値を見るために、基準年度である2008年度の排出係数を用いて算出した数値も掲載しております。）
 ■2014年度算出係数/ 電気量：0.551 (kg-CO₂/kWh)、都市ガス：2.23 (kg-CO₂/m³)、水：0.58 (kg-CO₂/m³)、一般廃棄物：0.0175 (kg-CO₂/kg)、産業廃棄物：2.55 (kg-CO₂/kg) (共通)
 ■2008年度算出係数/ 電気量：0.421 (kg-CO₂/kWh)、都市ガス：2.08 (kg-CO₂/m³)、水：0.58 (kg-CO₂/m³)
- 表記の数値は、年間総計を示しています（2014年4月1日～2015年3月31日）
- 外食店舗における投入量（INPUT）は、下記の方法により算出しています。
 ■エネルギー由来/ 電気：445店舗の平均単価（円/kWh）を用いて、経理支払い金額（円）を除いて算出しています。ガス：250店舗の平均単価（円/m³）を用いて、経理支払い金額（円）を除いて算出しています。水道：全店舗の平均単価（円/m³）を用いて、経理支払金額（円）を除いて算出しています。
 ■輸送由来/ 対象範囲はワタミファーム（農場・契約農家）→ワタミ手づくり厨房など、ワタミ手づくり厨房など→外食店舗・介護施設・宅食営業拠点としています。■食材（調達）由来/ 主たる食材である肉類の海外比率を代表数値として用い、全使用食材の総量を案分した数値に移動距離を乗じて算出しています。
- 外食店舗・介護施設における排出量（OUTPUT）は、2014年度の定期計量数値の平均を使用しています。

【グループ各社での取り組み】

■国内外食事業での取り組み

外食店舗での節電の取り組み

2011年度より、CO₂排出量を削減するために「環境改善項目」を設定し、節電に取り組んでいます。この改善項目を徹底させるため、各外食店舗には「改善マニュアルビデオ」を用意し、全ての従業員に対し、取り組み内容の浸透を図っています。

外食店舗へのLED照明の導入

2009年度より、外食店舗の内装に積極的にLED照明を導入しています。2012年度からは、看板照明へのLED照明の導入を開始しており、現在では395店舗に導入しています。また、新規出店時、転換時、改装時には厨房内の照明以外は全てLED照明化を進めており、2015年7月現在282店舗がLED照明を導入しています。今後も、改装や電球の交換時を利用して、順次切り替えを行っていきます。

■介護事業での取り組み

ホームでの間伐材の使用

施設内装の建材として、「ワタミの森」の間伐材を積極的に活用しています。2013年度以降に開設した介護施設「レストヴィラ」では、ご入居者様の居室トイレに、間伐材で制作された額が飾られています。



間伐材で制作された額

LED照明の導入

2013年度から、新棟へLED照明の導入を開始しました。演色性（※）にも考慮しつつ、導入数を増やしていけるよう取り組んでいます。

※ 演色性とは：物の色の見え方と光源の性質の関係。太陽の光を100として、それより数字が低くなるに従い、太陽光のもとで見える自然食とかけ離れた不自然な見え方になる。

遮熱ガラス・レースカーテンの導入

新棟の居室の窓に「遮熱ガラス」や「遮熱レースカーテン」を採用し、外部からの熱や冷機を遮断、冷暖房効率を上げる取り組みを行っています。



居室に設置された遮熱ガラスと遮熱カーテン

■宅食事業での取り組み

お弁当箱の再利用

お客様が使用したお弁当箱を翌日のお届け時に回収し、衛生的に洗浄・殺菌した上で、再利用しています。

食のムダの削減

お弁当やお惣菜のご注文を完全予約制にすることによって、食材を必要量だけ仕入れ、食材のロスを無くすことにも努めています。また、「お料理キット」では、必要な分だけ食材をお届けして、家庭に余分な食材が残らないようにしています。



お料理キット カット済み食材とオリジナル調味料
※写真はお料理キット 3人前食材のイメージ画像です。容器、器などは商品には含まれません。

■ワタミ手づくり厨房での取り組み

日本では、工場を建設する際に、防音、防風、防塵などの役目を果たす緑地を工場の周辺に設けることが義務付けられています。ワタミ手づくり厨房では、義務付けられる緑地をつくるだけでなく、多くの従業員に環境活動に参加してもらう機会として、2011年に稼動した東松山センターにて、公益財団法人 Save Earth Foundation の協力のもと、森づくり活動を行っています。

■ワタミグループ本社ビルでの取り組み

節電の取り組み

ワタミ(株)は、ワタミグループ本社ビルの環境負荷低減に取り組んでいます。ビル内の全蛍光灯にキャノピースイッチを設置し、不要な電気の消灯を呼びかけています。また、エアコンとサーキュレーター（※）を併用することで、エアコンのムダな稼動を防ぎ、室内設定温度を夏は28度前後に、冬は22度前後に保つようになっています。

※サーキュレーターとは：室内でのエアコンなどによる冷暖房では、暖気は上昇、冷気は下降し、室内の上下（天井付近と床面付近）の温度差が大きくなりやすく、エアコンの無駄な稼動を引き起こす。このような場合に、エアサーキュレーターを用いて天上へ向けて強い風を送り出すことにより、室内の空気が循環し攪拌され、この温度差をある程度解消することができる。



サーキュレーター

紙削減の取り組み

ワタミ(株)は、本社ビルで働く全社員へのFSC認証を使用した名刺の展開や、複合機にIC認証カードを導入し、無駄な印刷を防ぐなど、環境負荷低減の取り組みを行っています。